

平成21年度 入学式

四月六日、大岡山キャンパス屋内運動場にて、平成二十一年度本学学部入学式及び大学院入学式が挙行された。今年度の入学者数は、学部一・二・三、大学院修士課程一・五七二名（専門職大学院三〇名）、博士課程二九〇名の計二九八四名。昨年度の二九〇名より六名少なかった。午前には学部生の入学式が行われ、午後には大学院入学式が行われた。

式典は、本学管弦楽団による演奏とともに、東工大スクールカラーであるロイヤルブルーの使われたアカデミックカウンをまとった伊賀学長、来賓の方々、本学役員、研究科長などの先生方の入場で始まった。壇上の席についてまもなく、本学の男声合唱サークルシヴァルベニコールのリードの下、大学歌が斉唱された。その後は学長訓辞、来賓祝辞、新入生答辞と例年通りに進行した。



祝御入学
替前工業会
(東京工業大学同窓会)
東京工業大学 入学式会場
本学 午前10時30分
午後2時1分

伊賀学長は訓辞の中で、本学は「常に時代のフロントを切り拓き、頼りになる理工系大学として、高い専門教育とユニークで卓越した研究を行ってきた」と述べ、新東工大生に対しては「高い技術力を極めつつ、ほかの人のことを思いやる心を持った高潔な人物として成長して欲しい」と語った。来賓を代表して、本学同窓会「社団法人替前工業会」理事長の庄山悦彦氏（昭三四年卒）と、本学経営協議会委員で日本放送協会前会長である橋本元一氏（昭四三年卒）が、祝いの言葉を贈った。答辞は、学部入学式では庄村啓さん、大学院入学式では矢野路さんが述べた。

式典後は、恒例となっているピアノ演奏会が行われた。ピアノは秋場敬浩氏、曲目はラフマニノフ作曲「ピアノ協奏曲第二番八短調より第一楽章」で、本学管弦楽団との協奏。この曲は数多くの映画で使用されたこともあり、耳にしたことのある人も多かっただろう。アンコールの曲目はMr.Childrenの「HANABI」で、こちらはピアノ独奏。出席者一同聞き入り、演奏終了後は会場一杯に拍手が湧き起こった。

新入生入学

気持ち新たに

入学式

四月六日、まだ新しいスーツに身を包んだ私は東工大の入学式へと向かった。ネクタイはピンクだ。しかし私は当日になってもまだ合格したことに実感を持っていない。ネットで番号を確認した時自分の番号でないような気がして、いまいち喜ばなかった。私は余裕をもって一時間ほど早めに行ったのだが、式場である体育館前にはすでに結構な数の新入生が。みんな硬い顔つきで新しい環境を迎えようと緊張しているように見えた。しかし改めて見まわしてみると、本当に男が多い。というか女が少くない。限りなく少ない。そういう事態を知って東工大を受験したものだ、いかにせん少な過ぎた。こんな大学で何年過ごすのだろうかと考え、そして式場内に入る。

バスゼミ

例年、入学式の四、五日後新入生はバスセミナーに参加する。類ごとに違う場所へ向かうのだが、私の所属する五類の行き先はずか台キャンパスと箱根になっていた。先生方や五類の先輩方がスタップとして同行する一泊二日の旅だ。

朝の十時半、私達は大岡山からバスに乗りこみ出発した。お互い見知らずの人間士がバスの隣の席に座ることとなったが、しばらくするとすっかり打ち解けて話し込んでいる席が多く見受けられた。ワイワイとした雰囲気のまま一時間してずか台へ到着。私の班は到着後すぐに朝食を食べることができた。朝食の後に研究室見学で歩き回るなどという不運な班もあった。昼食後の研究室見学では班別によって研究室が異なるが、私は視覚を研究する内川研究室と面発光レーザーを研究する小山・宮本研究室を見学した。小山・宮本研究室では面発光レーザーを發明して世界的に評価を受けているのは他でもない伊賀



ぎる豪華な食事を美味しく頂くことができた。また、オリエンテーションとして上級生主催のビンゴ大会が開催された。賞品は図書カードといった実用性に優れたものから学生スタップ団長との添い寝権のような混沌としたものまで様々であった。噂では何年前か前に「単位」が賞品になったこともあったらしい。リーチやビンゴになれば欲しい、お目当てのワードが出ないときには一斉に落胆するという風には、多くの学生達が楽しく話し合える和気あいあいとした雰囲気を作り出されていた。こうして一日目の全体行事も無事に終わり、私達は部屋へ戻った。ここからは自由時間である。トランプで遊んだり、飲み食いして語り合ったり、深夜アニメを視聴したり、麻雀をやっていた部屋など色々な部屋があった。皆本当に様々な時間を過ごしていたことに驚かされた。どの部屋の話も聞いても共通していたのは、ほとんど睡眠をとってないということであった。確かに、二日目の午前中に行われた講演会、そして先生インタビューの会では睡眠に襲われてしまっている人が多かったようだ。これらの会が終わると、ついに閉会式を迎え大岡山へと帰るバスに乗ることになった。

第三一回 すずかけ祭

五月九、十日に行われたすずかけ祭。メインの東工大新技術コーナーでは、エネルギー・環境・バイオ・材料・情報・機能機械の各分野における東工大発の新技術をパネルで解説し、模型や映像、装置を用いた体験などを通して各研究所の研究成果を実感することができた。また、ここでは東工大に寄贈されたシラカンスの剥製も展示しており、その大きさに驚かされた。

多くの研究室がそれぞれの場所での研究成果を紹介していたが、高校生はもちろん、中学生でもわかるような分かりやすく面白いものもあり、また、どんな質問をしてもきちっとした回答をもらえるの十分な情報を求めている方にも楽しめる内容となっていた。ある研究室では、体験コーナーを設けて、装置の使用法や研究内容を大学生が丁寧に教えるところもあって、研究内容を理解する上でとても役に立った。

五月九日には特別企画講演会がすずかけホールで開催され、富士通株式会社本部長の佐相幸氏によるモバイルフォン産業の現在と未来について、東京工業大学大学院総合理工学研究科環境理工学創造専攻教授の梅干野晃氏を講師に迎え、ヒートアイランド現象から見た快適な街づくりについての講演をいただいた。

また、すずかけ祭開催期間では、一時から一七時まで付属図書館分館が一般公開されており、専門的な理工系図書、雑誌等に一般の人も気軽に触れてみる事ができるようになっていた。

講演会やコンサートを行っていたすずかけホールの外では模擬店が出店されていた。十日は最高気温二八℃という



普段の生活や講義ではあまり触れない分野の話も聞いたのでとても良い経験となった。

十日には同じすずかけホールでコンサートが二つ開かれた。午後〇時から東工大のピアノサークルの「フラタナス」が主催した学生と教職員による演奏会が行われ、午後三時から東工大管弦楽団によるアンサンブルコンサートが行われた。

また、すずかけ祭開催期間では、一時から一七時まで付属図書館分館が一般公開されており、専門的な理工系図書、雑誌等に一般の人も気軽に触れてみる事ができるようになっていた。

講演会やコンサートを行っていたすずかけホールの外では模擬店が出店されていた。十日は最高気温二八℃という

東工大初 コンビニ開店

六月一日、大岡山キャンパス南四号館一階に、学内唯一のコンビニエンスストアとなるセブンイレブン東京工業大学大岡山キャンパス店が開店した。南地区や石川台地区を多く利用する学生教職員は開店を待ち望んでおり、「まだか」の声が高まっている。

営業時間は七時から二時三時までと生協や学食よりも長く、年中無休で営業する予定である。タバコは取り扱っていないが、他の点では他店舗と遜色はない。弁当や惣菜、日用品の類はもちろん、アルコール飲料、店内調理された唐揚げやフライドポテトといった揚げ物も販売している。レジでの公共料金の支払いやインターネットで注文した商品の受け取りなどのサービスは通常のセブンイレブン店舗と同様に利用できる。セブン銀行ATMやコピー機も設置されている。

最大の特徴は、イトインスペースが設けられていることだ。コンビニ営業時間中は、備え付けの電子レンジや給湯器も含め、自由に利用できる。座席は七〇席あり、壁に向かった長テーブルと四人掛けの円形テーブルが並ぶ。東側の壁は全面ガラス張り、内外の様子が丸分かりだ。

開店したばかりのこのコンビニが、東工大において今後どのような位置に落ち着くかはまだ分からないが、便利になったことだけは間違いない。